

令和 5 年 6 月 17 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19H04379

研究課題名（和文）離島地域における住民の資源化に伴う観光地域社会の創出に関する地理学的研究

研究課題名（英文）A Study on the Sustainability of Local Communities from the Viewpoint of Lifestyle Migrants' Residence Preference

研究代表者

松井 圭介（Matsui, Keisuke）

筑波大学・生命環境系・教授

研究者番号：60302353

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,470,000円

研究成果の概要（和文）：現代日本において、人口流出および高齢化に伴う農山漁村地域の衰退を食い止めることは、持続的な社会を構築するうえで緊急かつ重要な課題である。そこで本研究では、観光資源として「地域住民」に着目し、離島地域におけるツーリズムを媒介した持続可能社会の構築を目的に研究を実施した。本研究では、日本国内の離島地域（伊豆諸島：神津島、瀬戸内地域：小豆島、奄美・沖縄地域：奄美大島、石垣島、竹富島、西表島、五島地域：福江島、久賀島、奈留島、中通島ほか）において資料収集・解析を行い、上記課題についてポジティブな事例を得た。調査結果の一部はすでに、日本地理学会ほかの学術大会で報告したほか、学術論文として成果を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、従来ともすれば部外者として扱われていた地域住民（女性や子ども、高齢者、よそ者など）の役割に照射し、多様な属性を持つ住民が共存的に生活する地域社会のあり方を模索した点において研究意義がある。彼（女）らの生活体験はユニークなものであり、島の風土や歴史によって培われたものであり、彼（女）らの「語り」や「生きざま」、「経験知」との出会いは観光客にとって魅力的な体験となりうるということが明らかにされた。離島地域は、人口減少・高齢化が今後さらに進展する日本社会の未来予想図でもある。女性や高齢者たちが活躍する社会を積極的に肯定することにより、地域社会および関連学界を活性化させることも期待される。

研究成果の概要（英文）：In modern Japan, halting the decline of rural areas due to population outflow and aging is an urgent and important issue for building a sustainable society. In this study, we focused on "local residents" as tourism resources, with the aim of building a sustainable society mediated by tourism in remote island regions. In this study, we collected and analyzed data in remote island areas in Japan (Kozushima in the Izu Islands; Shodoshima in the Setouchi area; Amami-Oshima, Ishigaki, Taketomi, and Iriomote Islands in the Amami/Okinawa area; and Fukue, Hisaka, Narushima, and Nakadori Islands in the Goto area), and obtained positive examples regarding the above issues. Some of the results of the survey have already been reported at academic conferences of the Association of Japanese Geographers and others, and the results have been published as academic papers.

研究分野：人文地理学，観光学

キーワード：離島地域 住民の資源化 観光地域社会 次世代観光資源 人口高齢化

## 1. 研究開始当初の背景

世界でも例をみない超高齢化社会が到来している日本では、人口流出及び高齢化に伴う農山漁村地域の衰退への対応は喫緊の課題である。そこで本研究では、農産漁村地域の典型事例として国土外縁部に位置する離島地域を対象とし、ツーリズムを活用した観光地域社会(ツーリズムを活かした地域社会)を創出するための施策提言を行うことを企図したものである。

国土外縁部に位置する離島は公共投資に依存し、経済的自立が困難な地域とみなされがちであるが、このような地域にこそ、まとまりの強いコミュニティが存在し、住民とくに女性や高齢者の知恵や経験を尊重する価値観が保たれていると想定される。こうした考え方は、都市住民にとって「失われた古き良き生活を知る人」や「島の語り部」として、観光資源化される可能性を有している。離島地域では、女性や子ども、高齢者は地域の宝であり、地域社会を支える主要構成員である。公共事業や第一次産業が縮退し、進学や就職を契機に島外の人口流出が避けられない離島では、一人一人の住民が貴重な地域資源となりうる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、人口減少とともに超高齢化社会をすでに迎えている国土外縁部の離島地域を対象とし、次世代観光資源としての地域住民(人)に着目し、彼(女)らを活かした観光地域社会の創出にかかわる地域的基盤を明らかにすることである。

## 3. 研究の方法

本研究は以下に示す4段階で研究を実施する。

(1)研究フレームワークの構築:本研究課題に関わる観光学、人文地理学、文化人類学、社会学、生活科学、島嶼研究などの研究成果を整理し、研究視点や概念、研究方法について精査する。

(2)研究対象地域候補の選定:1年目にパイロットサーベイを実施し、研究対象地域を設定する。ここでは応募者らの研究蓄積が利用できる長崎県五島地域、鹿児島県奄美諸島(含む屋久島)、沖縄県先島地域のほか、北海道の離島(礼文島)において、統計資料および市役所や商工会議所でのヒアリングに基づき、各離島の観光動態と観光への取り組みを把握する。

(3)インテンシブな現地調査の実施と分析:概括的調査を終えた後、具体的な研究対象地域を選定する。今のところ南西地域(長崎県、鹿児島県、沖縄県から3~4地域)および北海道(1~2地域⇒瀬戸内地域に変更)を選択する予定である。2年目と3(4)年目の調査では研究対象地域において、景観調査、史資料収集、聞きとり・アンケート調査等を実施する。

(4)研究成果の公開と応用:本研究で得られた研究成果を、学界や地域社会に向けて積極的に発言し、研究成果の応用に努める。

## 4. 研究成果

本研究の成果の一部は下記、学術論文等において発表している。今後収集資料の整理・分析を進めるとともに、研究成果をさらに公開していくことになる。

(学術図書・論文)

(1)Miyauchi, H., Matsui, K., Sukeshige, T. and Suyama, S. Tourism Development in Islands. In A. Hiraoka, S. Suyama, H. Miyauchi and T. Sukeshige (eds.), *Insularity and Geographic Diversity of the Peripheral Japanese Islands*, 219-253, Singapore: Springer. 2022.

(2)王 倚竹・松井圭介ほか9名:アートイベントを通じた地域活性化が住民に与えた影響-瀬戸内国際芸術祭2022を事例に-。人文地理学研究, 41, 1-9, 2023.

- (3)中山 玲・松井圭介ほか 9 名：小豆島におけるオリーブ産業の存続要因. 人文地理学研究, **41**, 11-26, 2023.
- (4)付 凱林・松井圭介ほか 9 名：離島における観光資源化の展開と特性—小豆島醬の郷を事例に—. 人文地理学研究, **41**, 27-38, 2023.
- (5)川添 航・松井圭介ほか 9 名：小豆島における宗教ツーリズムの変容と巡礼者の経験の特徴. 人文地理学研究, **41**, 39-54, 2023.
- (6)薄井 晴・松井圭介ほか 9 名：香川県土庄町における子育て世帯のインフォーマル・サポートの受容—子育て世帯の居住歴と社会関係に着目して—. 人文地理学研究, **41**, 55-67, 2023.
- (7)鈴木修斗・松井圭介ほか 9 名：香川県土庄町における地域おこし協力隊員のライフコースとキャリア. 人文地理学研究, **41**, 69-75, 2023.
- (8)川添 航・松井圭介ほか 6 名：茨城県龍ヶ崎市中心市街地における地域構造変化と都市祭礼運営. 地域研究年報, **44**, 45-72, 2022.
- (9)鈴木修斗・松井圭介ほか 6 名：牛久沼湖畔集落における複合的生業形態の変容と環境利用の動態—茨城県牛久市新地地区を事例として—. 地域研究年報, **44**, 95-122, 2022.
- (10)佐藤大輔・松井圭介ほか 5 名：レジャー利用者からみた牛久沼の姿と価値. 地域研究年報, **44**, 123-143, 2022.
- (11)松井圭介・川添 航：島の歴史はいかに語られるのか—五島列島の宗教ツーリズム. 地理, **68** (2), 31-39, 2021. ほか

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 岩井優祈・海老沢裕徳・村上亮太・押見隆弘・小林飛文・周 伊萱・平根由也・何 丹寧・莫 月月・松井圭介	4. 巻 42
2. 論文標題 茨城県鹿嶋市における商業地域構造の変容プロセスとそのメカニズムに関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域研究年報	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 川添 航・平澤賢剛・江 夢萱・橋詰あゆみ・賀 璋・季 瑛琦・松井圭介	4. 巻 42
2. 論文標題 地域産業政策と企業の進出経緯からみた鹿島臨海工業地帯の発展・維持	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域研究年報	6. 最初と最後の頁 59-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 芳賀幹大・佐藤大輔・若松 英・王 嘉瑤・馬 詩維・郭 仕瑩・喜馬佳也乃・卯田卓矢・松井圭介	4. 巻 42
2. 論文標題 地方都市における祭礼の維持形態に関する考察 - 鹿島神宮祭頭祭当番集落を事例に -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域研究年報	6. 最初と最後の頁 109-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松井圭介・川添 航	4. 巻 68
2. 論文標題 島の歴史はいかに語られるのか 五島列島の宗教ツーリズム	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 t地理	6. 最初と最後の頁 31-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤大輔・若梅匠吾・松原咲樹・王 会一・河原昂平・大島拓真・松井圭介	4. 巻 44
2. 論文標題 レジャー利用者からみた牛久沼の姿と価値	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域研究年報	6. 最初と最後の頁 123-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木修斗・瞿 芳馨・山下書子・魏 広森・前野祐里奈・&#134071;野広人・于 &#28656;赫・松井圭介	4. 巻 44
2. 論文標題 牛久沼湖畔集落における複合的生業形態の変容と環境利用の動態 - 茨城県牛久市新地地区を事例として -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域研究年報	6. 最初と最後の頁 123-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川添 航・付 凱林・章 青韵・Lu Zichang・柿沼由樹・熊谷美咲・Wu Sigala・松井圭介	4. 巻 44
2. 論文標題 茨城県龍ヶ崎市中心市街地における地域構造変化と都市祭礼運営	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域研究年報	6. 最初と最後の頁 45-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩井優祈・松井圭介	4. 巻 17
2. 論文標題 鹿嶋市中心商業地における経営者意識の形成過程	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 E-journal GEO	6. 最初と最後の頁 68-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4157/ejgeo.17.68	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 王 倚竹・坂本優紀・付 凱林・川添 航・薄井 晴・鈴木修斗・中山 玲・劉 逸飛・綾田泰之・杉谷大樹・松井圭介	4. 巻 41
2. 論文標題 アートイベントを通じた地域活性化が住民に与えた影響 瀬戸内国際芸術祭2022を事例に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人文地理学研究	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中山 玲・川添 航・鈴木修斗・薄井 晴・坂本優紀・王 倚竹・付 凱林・劉 逸飛・綾田泰之・杉谷大樹・松井圭介	4. 巻 41
2. 論文標題 小豆島におけるオリーブ産業の存続要因	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人文地理学研究	6. 最初と最後の頁 11-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 付 凱林・川添 航・王 倚竹・中山 玲・鈴木修斗・薄井 晴・坂本優紀・劉 逸飛・綾田泰之・杉谷大樹・松井圭介	4. 巻 41
2. 論文標題 離島における観光資源化の展開と特性 小豆島醬の郷を事例に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人文地理学研究	6. 最初と最後の頁 27-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川添 航・劉 逸飛・坂本優紀・鈴木修斗・薄井 晴・中山 玲・付 凱林・王 倚竹・綾田泰之・杉谷大樹・松井圭介	4. 巻 41
2. 論文標題 小豆島における宗教ツーリズムの変容と巡礼者の経験の特徴	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人文地理学研究	6. 最初と最後の頁 39-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 薄井 晴・鈴木修斗・坂本優紀・川添 航・中山 玲・付 凱林・王 倚竹・劉 逸飛・綾田泰之・杉谷大樹・松井圭介	4. 巻 41
2. 論文標題 香川県土庄町における子育て世帯のインフォーマル・サポートの受容 子育て世帯の居住歴と社会関係に着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文地理学研究	6. 最初と最後の頁 55-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木修斗・薄井 晴・川添 航・坂本優紀・中山 玲・王 倚竹・付 凱林・劉 逸飛・綾田泰之・杉谷大樹・松井圭介	4. 巻 41
2. 論文標題 香川県土庄町における地域おこし協力隊員のライフコースとキャリア	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文地理学研究	6. 最初と最後の頁 69-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 岩井優祈・松井圭介
2. 発表標題 鹿嶋市中心商業地における商業空間と観光空間の混雑化に関する研
3. 学会等名 日本地理学会春季学術大会 駒澤大学
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 柿沼 由樹, 久保 倫子, 松井 圭介
2. 発表標題 観光地域における住民の場所イメージの再編 - 東京都神津島村における星空の観光資源化と星空保護区への認定を事例に -
3. 学会等名 日本地理学会春季学術大会 東京都立大学
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松井圭介
2. 発表標題 教育資源としてのキリシタン
3. 学会等名 日本地理学会地理総合セミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松井圭介
2. 発表標題 世界遺産と宗教ツーリズム 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産を中心として
3. 学会等名 人文地理学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松井圭介
2. 発表標題 潜伏キリシタンと宗教ツーリズムの魅力
3. 学会等名 「潜伏キリシタン関連遺産」大阪説明会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松井圭介
2. 発表標題 宗教ツーリズムの魅力と「ながさき巡礼」
3. 学会等名 「ながさき巡礼」福岡説明会（招待講演）
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 松井圭介
2. 発表標題 潜伏キリシタンと宗教ツーリズムの魅力
3. 学会等名 「潜伏キリシタン関連遺産」東京説明会（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 公益社団法人日本地理学会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 842
3. 書名 地理学事典	

1. 著者名 Miyuchi, H, Matsui, K., Sukeshige, T. and Suyama, S	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 261
3. 書名 Insularity and Geographic Diversity of the Peripheral Japanese Islands	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	須山 聡  (Suyama Satoshi)  (10282302)	駒澤大学・文学部・教授    (32617)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐藤 大祐  (Sato Daisuke)  (20405616)	立教大学・観光学部・教授    (32686)	
研究分担者	卯田 卓矢 (ウダタクヤ)  (Uda Takuya)  (20780159)	名桜大学・国際学部・准教授    (28003)	
研究分担者	呉羽 正昭  (Kureha Masaaki)  (50263918)	筑波大学・生命環境系・教授    (12102)	
研究分担者	堤 純  (Tsutsumi Jun)  (90281766)	筑波大学・生命環境系・教授    (12102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関